

新年号は万葉の祈り「令和」で実現

“初春令月、気淑風和、梅披鏡前之粉、蘭薫珮後之香

【出典】「万葉集」巻五、梅花の歌三十二首并せて序

初春の令月(れいげつ)にして、気淑(よ)く風和(やわら)ぎ、梅は鏡前(きょうぜん)の粉(こ)を披(ひら)き、蘭(らん)は珮後(はいご)の香(こう)を薫(かお)らす

【現代語訳】(中西進氏著「万葉集」から)

新春の好(よ)き月、空気は美しく風はやわらかに、梅は美女の鏡の前に装う白粉(おしろい)のごとく白く咲き、蘭は身を飾った香の如きかおりをただよわせている

元号の意味

元号は、みんなが「こういう時代にしようよ」という目標。心のよりどころといってもいい。元号は制度と思われるかもしれませんが、むしろ人々の生き方を示す文化、志というべきものです。そういう文化を残す国が世界にひとつくらいあってもいいでしょう。

誤解を恐れずに言えば、西暦は時間経過を示した数字にすぎない。これに比べると元号はおしゃれですよね。手紙を書くときに西暦よりも元号の方が美しいでしょう。

皇室に抱かれる国民の幸せ 曾野綾子

日本が象徴としての天皇家と共にあるということは、実は非常に大きな意味があることだと私は感じている。中心が定まっていないと、物事は、不必要に大きくぶれる。

社会の変えてはいけない部分には、変えないことによる強固な文化の継続があり、変わるべき部分には、常に世の中を流動させる柔らかい生命の誕生がある。

不思議なことに、変えてはいけない部分には変えないことによって新しく生命が生まれ、変わるべき部分は変化によって再生する。この複雑な仕組みを単純に一つの原則によって動かしてはならない。

元号「令和」を初めて聞いた時の私の感想

Beautiful Harmony と英訳した人がいる。また BBC は新元号を「Order and Harmony(令和)」と英訳しました。これは「秩序と平和 or 調和」と言う事、素晴らしいですね、私も全くの同感です。

漢字体から受けるバランスの良さに併せ、心の和みを感じさせる「和」の言葉があります。

世界はグローバル化が進み日本は高齢化が進む困惑の世が予測される。この情勢の中、日本は古来からの和の精神を元に年号から受ける秩序と平和 or 調和の心で自国は基より世界平和に向けてリードする国となる事を望みます。